



2011年 新年おめでとうございますー!!

昨年は「灯籠流し」や「せせらぎ祭り」に、大勢の皆さんが笑顔で集まり、盛大に行われました。

われわれ「せせらぎネット」は「せせらぎ遊歩道」に根を張って、せせらぎを愛する皆さんと声を掛け合い、「颯域の安全と地球の平和」を目指して、皆さんと手を取り合って行きたいと願っています。

下の写真は、年末にせせらぎと周辺をきれいにしようとして集まり、記念に写した写真ですが、忙しいメンバーが多いので、集まりがイマイチでした。

遅くなりましたが昨年行ったアンケートを集約し、みなさんのご意見を基に話し合いと交流をさらに深め、より良い「地域づくり」を目指しますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

せせらぎネット役員一同



年末のせせらぎ清掃の様子

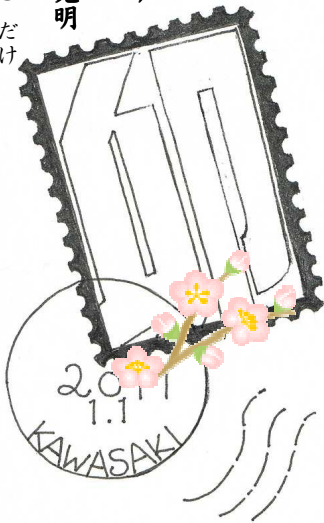
連載 各地の祭を訪ねて⑩
四日市祭の山車からくり
大入道

佐藤 克明

各地の祭に登場する山車(だし)だけを見て、実に多彩で、さまざまな楽しみがあります。山車の上で演じられるからくり人形もその一つ。三重県の四日市祭には、今から二百年前に始まるという大入道が現れます。

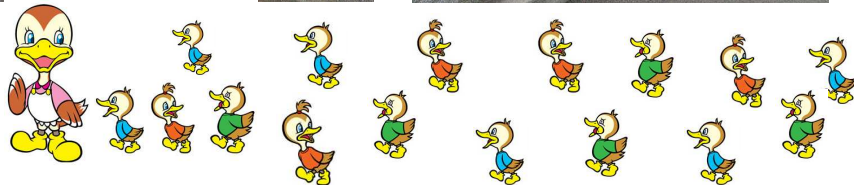
昨年十月、仕事の合間に、その大入道山車を見に四日市祭を訪ねました。各町会が出す山車が、一か所で演じては次の場所に移動していきます。二体の人形が舞う「甕(かめ)割り」は、一緒に遊んでいた友だちが水がめに落ちたのを、甕を割って助けたという、命の大切さを伝える故事をもとにしているという説明のアナウンスがありました。

大入道にも由来があり、その昔は海岸に近かった町に、狸が大入道に化けて現れ、人びとを脅かしたので、それを上回る首の伸びる大入道を作って狸を追いかつたのだとか。からくりの大入道は、首の長さが二、三七〇センチあり、太鼓と銅鑼(どら)の伴奏に合わせて、伸ばしたり縮めたり曲げたり、眉、目を動かし、長い舌を出したりします。最高で地面から九歳近くにもなるという、最大級のからくり人形です。



首の部分が蛇腹のような構造で、鯨のヒゲをばねにして、紐と滑車の組み合わせで動かすのだそうですが、山車の中の人々が操作しているようです。それをのぞき見することはできませんでしたが、こうしたからくり人形を初めに作ったのは、世界に誇る日本のものづくりの技をもった江戸時代の細工師たちだったのだと思います。

それにしても、狸退治に名を借りて、巨大なからくり人形を作った二百年前の人たちは、ほんとうは何を退治したかったのか。いまなら・・・、などと考えるかもしれません。



連載
詩吟―続― 稲本 吼信

詩吟には何百という流派があります。西洋音楽にはキッチリとした音符が付いており、これに正確に乗り、正しい発声で歌う事が出来れば、絶賛されますが、邦楽、殊に詩吟などの声芸術は、古来より「品位や味」などと言うものを重んじてきました。しかし、音譜が無個性が出しやすいため、どうしても吟士個々の技法に対して魅力を感じやすくなり、師事者が増え、結果、多流派が生まれたのではないかと考えられます。

詩吟のもう一つの特徴に、合吟と言う手法があります。西洋のコーラスとは違い、基本的には、皆で同じ漢詩を同じ抑揚で同時に歌うものですが、元々教訓詩のようなものを覚えるため、寺子屋のような処で、声を合わせて合唱していた物だろうと考えられます。棒読みの物から始まったと思われ、しかし、臍下丹田(注1)より発声する爽快感は、合吟も、独吟も変わり無く、寧ろストレスの軽い分だけ、合吟の方が、健康的かも知れません。

注1) 臍下丹田(せいかたんでん)とは臍(へそ)の下の丹田(下腹部)と呼ばれる部位のことで、広辞苑によると「臍下丹田に力を入れると健康と勇気を得る」と説明されています。

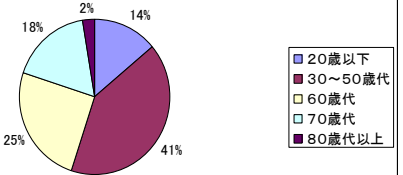
せせらぎアンケート集計結果

(設問1~4)

1. 年齢

20歳以下 46 30~50歳 135
60歳代 82 70歳代 58 80歳以上 8

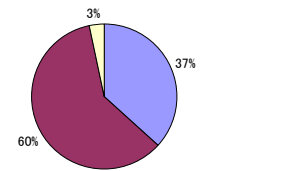
利用者の年齢層 回答数329



2. お住まい

中原区 112 高津区 183 川崎市 5
横浜市 3 東京都 2

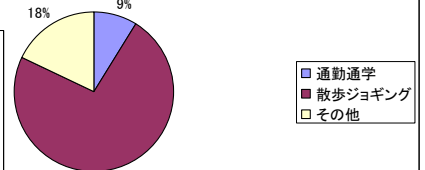
回答者のお住まい 回答数305



3. あなたのせせらぎ遊歩道の主な利用目的は？

通勤通学 30 散歩やジョギング 244
その他 59

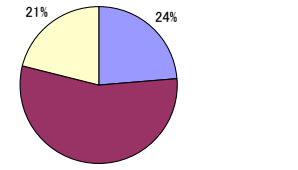
利用目的 回答数333



4. あなたがせせらぎ遊歩道を利用する頻度は？

ほぼ毎日 68 週に数回 159
その他 61

利用頻度 回答数288



アンケート調査の背景

「せせらぎネットでは、せせらぎ遊歩道」をみなさんが快適に利用できるよう行政や地域住民その他の利用者に対して何らかの働きかけをしようと考えています。そこでまず、周辺住民や利用者の方々から「せせらぎ遊歩道」に対し、どういったイメージやご意見をお持ちなのかをアンケートというかたちで調査し、その結果を公表した上で、今後の活動に生かして行こうと考えています。

今回のアンケートで約四百件の回答を得ることができました。今後はこのアンケート調査結果を踏まえ周辺沿線にお住まいの方々から、より多くのご意見をお聴きすること、で、みんなで考えるきっかけにしようと考えております。周辺沿線各町会には別途「報告書」というかたちで公表して、改めてご意見を伺いたいと思っております。アンケートにお答えくださった皆さまには御礼申し上げます。ご記入ご意見をいただきましてありがとうございます。

アンケート結果報告 抜粋

設問5. 6のせせらぎの美観・景観に関する設問には大多数の方が「とても綺麗だ」「綺麗だ」と答えています。どちらともいえない」と答えた方を除き9割近くの方が美観・景観に関しては好感をお持ちになられているようです。設問7以降では「設備」や「マナー」の他の「マナー」に関して、「交通」に関するもの等、特に多く寄せられたご意見を以下に掲載いたしました。利用者数や頻度は少ないものの、トイレの清掃や子供たちの遊具、ベンチ等を増やして欲しいといったご意見がありました。また、生き物への虐待や餌やりなどとペット散歩時のマナーが悪いことなどで近隣にお住まいの方は糞害の迷惑を被っているというご意見も多くありました。

交通面では禁止されている自転車の乗り入れや大型犬の散歩、スピードジョギングなどの危険を訴えるご意見がありました。また、場所により横断歩道の設置や車両の無断駐車、釣りやタバコ等のごみの問題へのご指摘も有りました。

本件に関する意見お問い合わせ先
事務局・田辺0447665315

第四回森とせせらぎ

祭り』御禮

森とせせらぎ祭り実行委員長 平井資嘉寿

明けましておめでとうございませう。本年も宜しく願い申し上げます。昨年十一月七日(日)、高津区子母口の橋公園にて、森とせせらぎ祭りが開催されました。天候にも恵まれ、広い公園が出店と

関係団体イベント紹介

ひとみ座 乙女文楽若手公演
三月十三日(日) 十一時/十五時

井田山・中原区市民健康の森を育てる会
二月十九日(土) 九時~ 椎茸ホダ木作り

おと絵がたり
三月五日(土) 中原市民館ホール
公演とワークショップ 内容未定
問合せ
otoestage-qanda@mail.goo.ne.jp

来場者で一杯になる程賑やかで、迷子が二人も出てしまうほどの活況を呈し、まるで区民祭を思わせるような雰囲気でした。

この祭りが大成功できたのも、故人となられました井田地区の初代企画部長、石川嘉輝様が病を押しての大責を果たされ、せせらぎ祭りの基礎を構築してくださりましたこと。

一方、やはり井田地区の故大石富治翁の頭脳明晰にして包容力があり、そして理知的で尚且つ先進性に富んだ人柄だった、私達の最高の良き指導者のお陰なのです。

叶わぬことですが、このお二人が橋公園でのせせらぎ祭りをご覧になったらきっと、よくここまで頑張ってくれた」と喜んで下さるに相違ないと感じております。

第一会場とイベント会場の一体化は当初からの念願であり理想でしたので、実現できたことは私達はもろろんのこと出演者、出店者、地域住民の方々から何より望んでいた訳でございます。

そして今年の第五回目も設備費は掛かりますが、やはり一体化して行うのが理想と個人的には思っております。また、祭りを成功に導いた大勢の役員ほか皆様の多大なご支援ご協力に感謝申し上げます。

ありがとうございました。

2011年 新年おめでとぅございませす!!

昨年(2010年)は「灯笼流し」や「せせらぎ祭り」に、大勢の皆さんが笑顔で集まり、盛大に行われました。われわれ「せせらぎネット」は「せせらぎ遊歩道」に根を張って、せせらぎを愛する皆さんと声を掛け合い、颯々の安全と地球の平和」を目指して、皆さんと手を取り合って行きたいと願っています。下の写真は、年末にせせらぎと周辺をきれいにしようとして集まり、記念に写した写真ですが、忙しいメンバーが多いので、集まりがイマイチでした。遅くなりましたが昨年行ったアンケートを集約し、みなさんのご意見を基に話し合いと交流をさらに深め、より良い「地域づくり」を目指しますので、ご支援・ご協力をお願いいたします。

せせらぎネット役員一同



年末のせせらぎ清掃の様子



連載 各地の祭を訪ねて⑩
 四日市祭の山車からくり
 大入道

佐藤 克明

各地の祭に登場する山車(だし)だけを見ても、実に多彩で、さまざま楽しみがあります。山車の上で演じられるからくり人形もその一つ。三重県の四日市祭には、今から二百年前に始まるという大入道が現れます。

昨年十月、仕事の合間に、その大入道山車を見に四日市祭を訪ねました。各町会が出す山車が一所所で演じては次の場所に移動していきます。二体の人形が舞う「甕(かめ)割り」は、一緒に遊んでいた友だちが水がめに落ちたのを、甕を割って助けたという、命の大切さを伝える故事をもとにしているという説明の「アナウンス」がありました。

「大入道」にも由来があり、その昔は海岸に近かった町に、狸が大入道に化けて現れ、人びとを脅かしたので、それを上回る首の伸びる大入道を作って狸を追いかつたのだとか。

からくりの大入道は、首の長さが二尺七〇センチあり、太鼓と銅鑼(ぶら)の伴奏に合わせて、伸ばしたり縮めたり曲げたり、眉、目を動かし、長い舌を出したりします。最高で地面から九尺近くにもなるといって、最大級のからくり人形です。



首の部分が蛇腹のような構造で、鯨のヒゲをばねにして、紐と滑車の組み合わせで動かすのだそうです。山車の中の人(操作しているようですが、それをのぞき見ることはできません)が、それをのぞき見たからくり人形を初めに作ったのは、世界に誇る日本のものづくりの技をもった江戸時代の細工師たちだったのだと聞きました。

それにしても、狸退治に名を借りて、巨大なからくり人形を作った二百年前の人たちは、ほんとうは何を退治したかったのか。いまなら・・・、などと考えると、

連載 詩吟「続」 稲本 吼信

詩吟には何百という流派があります。西洋音楽にはキッチリとした音符が付いており、これに正確に乗り、正しい発声で歌う事が出来れば、絶賛されますが、邦楽、殊に詩吟などの声芸術は、古来より「位や味」などと言うものを重んじてきました。しかし、音譜が無個性が出しやすいため、どうしても吟士個々の技法に對して魅力を感じやすく、師事者が増えていった結果、多流派が生まれたのではないかと考えられます。

詩吟のもう一つの特徴に、合吟と言う手法があります。西洋のコーラスとは違い、基本的には、皆で同じ漢詩を同じ抑揚で同時に歌うものですが、元々教訓詩のようなものを覚えるため、寺子屋のような処で、声を合わせて合吟していった物だろーと考へられ、棒読みのな物から始まったと思われます。しかし、臍下丹田(注1)より発声する爽快感、合吟も、独吟も変わり無く、寧ろストレスの軽い分だけ、合吟の方が、健康的かも知れません。

注1) 臍下丹田(せいしたんでん)とは臍(へそ)の下の丹田(不腹部)と呼ばれる部位のことで、広辞苑によると「臍下丹田に力を入れると健康と勇気を得る」と説明されています。